

教科	国語	科目	現代文A	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	選択(普通科文系・国際教養科)

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読むことによって、言語文化に対する理解を深め、多角的な視点を持ち、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

2. 使用教材

『高等学校 改定版 新編 現代文A』(第一学習社)
『高等学校 改訂版 新編 現代文A 学習課題集』(第一学習社)
『大学入試 最新国語頻出問題』(文英堂)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	【随想・評論】 福田哲夫「なぜ“コロンブスの卵”を描くのか」 飯田朝子「教え方で磨く日本語」	3h 3h	前期3年
	5月	【小説・詩歌】 いしいしんじ「調律師のるみ子さん」	4h	
	6月	【随想・評論】 阿刀田高「犬も歩けば棒に当たる」 河合隼雄「花女房」	3h 4h	
	7月	平田オリザ「コミュニケーションの文化」	3h	
	8月	【随想・評論】 千松信也「クマを変えてしまう人間」 原 研哉「大量生産の眩暈」	4h 3h	前期期末
	9月	【小説・詩歌】 夏目漱石「こころ」	8h	
後期	10月	【随想・評論】 森本哲郎「経験の教えについて」 鷺田清一「支えあうことの意味」	5h 5h	後期中間
	11月	【小説・詩歌】 原田マハ「いろはに、こんぺいとう」 独自教材による文章読解	5h 20h	
	12月			
	1月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査の素点 ②出席状況(欠課・遅刻・早退の数)
③授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・分りにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。
- ・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
- ・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情の描写を的確に捉える。

教科	国語	科目	現代文B（文系）	単位数	3
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修・文系（ABC）、国際教養

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、ものの考え方や論理の展開の仕方を学び、自ら進んで表現できる力を養う。

2. 使用教材

『現代文B』（第一学習社）、『現代文B 学習課題集』（同）、『新国語総合ガイド』（京都書房）
『完成現代文 3ステップオリジナル問題集』（尚文出版）『大学入試 最新国語頻出問題』（文英堂）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
前 期	4月	・評論 長倉洋海「写真の持つ力」 ・小説 梶井基次郎「檸檬」	8h 8h	前期3年試験
	5月	・評論 野矢茂樹「言語が見せる世界」	8h	
	6月	・評論 浜田寿美男「身体の個性」 ・評論 岩井克人「未来世代への責任」	8h 8h	
	7月	・評論 西谷 修「いのちのかたち」	8h	前期期末試験
	8月		8h	
	9月			
後 期	10月	・評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」 ・評論 夏目漱石「現代社会の開化」 ・評論 河野哲也「コスモポリタニズムの可能性」	8h 8h 8h	後期中間試験
	11月	特編 ・問題演習	25h	
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

① 定期考査の素点 ② 出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）③ 授業態度（教材準備・発問評価・積極性等）
④ 家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・分りにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。文章を読んで考えたことを、自分の言葉でまとめ、表現する力をつける。日頃から読書や新聞など活字に親しみ基本的理解力を高めていく。
・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情、の描写を的確に捉える。
・毎時間行う『読解の基礎を固める現代文単語ノート』の小テストの勉強をしっかりと行い、力をつける。

教科	国語	科目	現代文B（理系）	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修・理系（E・F）、国際教養

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読み、読解力を高めるとともに、ものの考え方や論理の展開の仕方を学び、自ら進んで表現できる力を養う。

2. 使用教材

『現代文B』（第一学習社）、『現代文B 学習課題集』（同）、『新国語総合ガイド』（京都書房）
『完成現代文 3ステップオリジナル問題集』（尚文出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
1 学期	4月	・評論 長倉洋海「写真の持つ力」	6h	前期3年試験
	5月	・小説 梶井基次郎「檸檬」	8h	
	6月	・評論 西谷 修「いのちのかたち」	6h	
2 学期	7月	・評論 中村雄二郎「目に見える制度と見えない制度」	7h	前期中間試験
	8月			
	9月	・評論 大澤真幸「リスク社会とは何か」	8h	
3 学期	10月	・評論 夏目漱石「現代社会の開化」	7h	後期中間試験
	11月	・評論 河野哲也「コスモポリタニズムの可能性」	8h	
	12月	特編 ・問題演習	20h	
	1月			
	2月			
3月				

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

① 定期考査の素点 ② 出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）③ 授業態度（教材準備・発問評価・積極性等）
④ 家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・分かりにくい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。文章を読んで考えたことを、自分の言葉でまとめ、表現する力をつける。日頃から読書や新聞など活字に親しみ基本的理解力を高めていく。
・常に本文中に根拠を求める論理的な読みを心がける。
・文学的文章は特有の表現を確かめつつ、人物、情景、心情、の描写を的確に捉える。
・毎時間行う『読解の基礎を固める現代文単語ノート』の小テストの勉強をしっかりと行い、力をつける。

教科	国語	科目	古典A	単位数	4
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	選択(文系・国際教養)

1. 学習の目標・概要

多くの古典作品に触れることで、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典作品を楽しみながら講読することにより、日本・中国の歴史文化を学び、人生を豊かにする。

2. 使用教材

『高等学校 古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章』(第一学習社), 『学習課題集 古典A』(同), 『体系古典文法』(数研出版), 『体系漢文』(数研出版) 『大学入試 最新国語頻出問題』(文英堂)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	・古文 「時平と道真」(『大鏡』) ・漢文 「答陳商書」(『昌黎先生文集』)	17h	前期3年試験
	5月	・古文 「藤壺の宮の入内」(『源氏物語』)	23h	
	6月	・古文 「はいずみ」(『堤中納言物語』) ・古文 「若君の結婚」(『とりかえばや物語』)		
	7月	・漢文 「黠鼠賦」(『経進東坡文集事略』)		30h
	8月	・古文 「時平と道真」(『大鏡』) ・古文 『源氏物語玉の小櫛』		
9月	・漢文 「徐公長者」(『池北偶談』)			
後期	10月	・古文 「姫君の失踪」(『住吉物語』) ・古文 「住吉での再会」(『住吉物語』) ・古文 服部土芳『三冊子』	30h	後期中間試験
	11月	・特編 問題演習	40h	
	12月			
	1月			
	2月			
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ① 4回の定期考査の素点 ② 出欠状況(欠課・遅刻・早退の数)
③ 授業態度(教材準備・発問評価・積極性等) ④ 家庭学習状況(課題提出・小テスト・ノート等)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

基本は古典Bと同じである。

- ①授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。
②予習をしっかりと行い、文章の読み方や単語の意味などを事前に調べておく。

教科	国語	科目	古典B	単位数	3
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	必修・文系（A・B・C・）、国教

1. 学習の目標・概要

古典の教材を読み、当時の文章や考えに触れることにより、古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方等思考の幅を広げる。また、日本の文化や古典への理解・関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

『古典B』（第一学習社）、『古典B 学習課題集』（同）、『体系古典文法』（数研出版）、『体系漢文』（数研出版）、『核心古文単語351』（尚文出版）、『大学入試 最新国語頻出問題』（文英堂）『完成古典 3ステップオリジナル問題集』（尚文出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
1 学期	4月	・古文「賢人右府」（『十訓抄』） ・漢文「不顧後患」（『説苑』）	7h 7h	前期3年試験
	5月	・古文「ふと心劣りとかするものは」（『枕草子』）	7h	
2 学期	6月	・古文「紫の上の死」（『源氏物語』） ・漢文「不死之道」（『列子』）	7h 7h	前期中間試験
	7月	・古文「うつろひたる菊」（『蜻蛉日記』）	8h	
	8月	・古文「須磨の秋」（『源氏物語』）	8h	
3 学期	9月	・漢文「奇岩石」（『唐荊川文集』）	7h	前期期末試験
	10月	・古文「夢よりもはかなき世の中」（『和泉式部日記』）	9h	
	11月	・漢文「諸葛孔明の智略」（『三国志演義』）	8h	
		・特編 問題演習	30h	
	12月			
	1月			
2月				
3月				

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①定期考査の素点 ②出席状況（欠課・遅刻・早退の数）
③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

①授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。
②毎時間行う『読んで見て覚える重要古文単語315』（桐原書店）の小テストの勉強をしっかりと行い、定期考査前には考査範囲を完璧にすること。

教科	国語	科目	古典B	単位数	2
学年	3年	学科	普通科	履修対象	必修・理系 (E、F)

1. 学習の目標・概要

古典の教材を読み、当時の文章や考えに触れることにより、古文・漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方等思考の幅を広げる。また、日本の文化や古典への理解・関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

『古典B』（第一学習社）、『古典B 学習課題集』（同）、『体系古典文法』（数研出版）、『体系漢文』（数研出版）、『核心古文単語351』（尚文出版）、『大学入試 最新国語頻出問題』（文英堂）『完成古典 3ステップオリジナル問題集』（尚文出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	・古文「賢人右府」(『十訓抄』) ・漢文「不顧後患」(『説苑』)	6h	前期3年試験
	5月	・古文「ふと心劣りとかするものは」(『枕草子』)	8h	
2 学期	6月	・古文「紫の上の死」(『源氏物語』) ・漢文「不死之道」(『列子』)	6h	前期中間試験
	7月	・古文「うつろひたる菊」(『蜻蛉日記』)	7h	
	8月	・古文「須磨の秋」(『源氏物語』)	8h	
3 学期	9月	・漢文「奇岩石」(『唐荊川文集』)		前期期末試験
	10月	・古文「夢よりもはかなき世の中」(『和泉式部日記』)	7h	
	11月	・漢文「諸葛孔明の智略」(『三国志演義』)	8h	
	12月	・特編 問題演習	20h	
	1月			
	2月			
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①定期考查の素点 ②出席状況（欠課・遅刻・早退の数）
③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

①授業のあったその日のうちに必ず復習し、重要単語・文法事項・句形などを全て覚えていく。
②毎時間行う『読んで見て覚える重要古文単語315』（桐原書店）の小テストの勉強をしっかりと行い、定期考查前には考查範囲を完璧にすること。

教科	地歴	科目	探究日本史		単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	普通科文系選択者	

1. 学習の目標・概要

2年次の日本史 A・B の学習成果を踏まえ、社会経済史・文化史などテーマ別に発展的な学習を行う
また、進学した際に求められる基礎的な知識の定着を図る。

2. 使用教材

詳説日本史（山川出版社） 図説日本史通覧（帝国書院） 詳説日本史 10 分間テスト（山川出版社）
復習と演習 日本史テスト改訂版（山川出版社）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
前 期	4月	近世史前期	8時間	
	5月	近世史中期	8時間	授業内
	6月	近世史後期	8時間	前期中間
	7月	近世史幕末	10時間	
	8月	近代史①（大正時代～昭和前期）	8時間	
	9月	近代史②（昭和前期）	12時間	前期期末
後 期	10月	現代史①（昭和後期・戦後復興）	10時間	
	11月	現代史②（昭和後期・平成・高度経済成長～現代）	10時間	後期中間
	12月	文化史（近代・現代） 共通テスト 直前対策	6時間	
	1月	共通テスト問題演習	15時間	授業内
	2月	国公立2次・私立 直前対策		
	3月		10時間	後期期末

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各時代の諸状況の背景について、根拠をもって考察できたか。 学習内容や自己の意見を場面に応じ的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
- ・定期考査にはしっかり学習して臨むこと。

教科	地歴	科目	探究地理		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	普通科理系選択者	

1. 学習の目標・概要

地理Bの学習成果を踏まえ、系統地理や地誌領域を探究的に学び、発展的な地理的素養を養う。
国内外の時事問題を通して、地誌を探究する能力を身につける。

2. 使用教材

新詳地理B（帝国書院）、詳解現代地図（二宮書店）、
ウィニングコンパス地理の整理と演習（とうほう）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	世界の農業	10	(第1回) 世界の農業 世界の工業 人口・交通・ 貿易
	5月	世界の工業・エネルギー	15	
	6月	人口・交通・貿易	10	
	7月	村落	5	(第2回) 村落 都市 人種問題
	8月	都市	5	
	9月	人種問題	15	
後期	10月	言語・宗教・民族	15	(第3回) 言語・宗教・ 民族 国家の領域 と結びつき
	11月	国家の領域と結びつき	15	
	12月	地誌総合	15	
	1月	問題演習 直前対策	15	
	2月	問題演習 直前対策	20	
	3月			

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	地球の自然環境や人間生活について、基本的な視点を持ち、様々な課題やその関連性について理解を深め、その一連の知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関する情報を収集し、適切にまとめたりうまく発表したりできているか。 ・教科書の図版資料や地図帳、景観写真等から情報を適切に読み取りまとめ・発表できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活している土地に対する関心を持ち、身近な地域の特色や課題について意欲的に調査しているか。 ・様々な国の特色や課題等についての関心を高め、その解明に向けて意欲的に学んでいるか。
主な評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 グループワーク	課題 グループワーク

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・定期考査にはしっかり学習して臨むこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題プリント等の提出物の期限は守ること。
--	---

教科	公民	科目	政治経済		単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	文系	

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・社会における政治の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚を促す。 ・経済活動の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通し現代世界における諸課題を考察する。
--

2. 使用教材

教科書：高校政治・経済（実教出版）
副教材：政治・経済資料(とうほう)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能	8時間	授業内テスト 前期中間 考查
	5月	経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き	8時間	
	6月	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題	8時間	
	7月	社会保障制度、国際経済、為替相場	6時間	
	8月	国際経済機関の役割	9時間	
	9月	国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障	9時間	前期期末 考查
後期	10月	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣	9時間	後期中間 考查 授業内テ スト 後期期末 考查
		裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会	9時間	
	11月	国際政治、国際社会、国際連合	9時間	
	12月	安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和、まとめと問題演習	15時間	
		まとめと問題演習	15時間	
	1月			
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	これからの日本経済や世界経について思考し、学習内容や自己の意見を場面に応じ的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・副教材を積極的に活用し、基礎知識を確実にすることが、共通テストでの高得点につながる。
- ・時事問題対策として、日頃から新聞やニュースに目を通したりすることも大切である。

教科	公民	科目	政治・経済		単位数	4
学年	3年	学科	普通科理系	履修対象	普通科理系選択者	

1. 学習の目標・概要

- ・社会における政治の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚を促す。
- ・経済活動の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通し現代世界における諸課題を考察する。

2. 使用教材

教科書：高校政治・経済（実教出版）
副教材：政治・経済資料（とうほう）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能	10時間	授業内テスト 前期中間 考查
	5月	経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き	10時間	
	6月	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題	10時間	
	7月	社会保障制度、国際経済、為替相場	10時間	
	8月	国際経済機関の役割	12時間	
	9月	国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障	12時間	前期期末 考查
後期	10月	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣	12時間	後期中間 考查 授業内テ スト 後期期末 考查
		裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会	12時間	
	11月	国際政治、国際社会、国際連合	20時間	
	12月	安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和、まとめと問題演習	20時間	
	1月	まとめと問題演習		
	2月 3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	これからの世界経済について思考し、学習内容や事故の意見を場面に応じて的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考查の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・副教材を積極的に活用し、基礎知識を確実にすることが、共通テストでの高得点につながる。
- ・時事問題対策として、日頃から新聞やニュースに目を通したりすることも大切である。

教科	地歴	科目	探究世界史		単位数	3
学年	3年	学科	国際教養科	履修対象	国際教養科選択者	

1. 学習の目標・概要

2年次の世界史Bの学習成果を踏まえ、より発展的なテーマを扱う。世界史体系的に捉え、進学した際に求められる思考力の定着を図る。

2. 使用教材

教科書：詳説世界史（山川出版社）
副教材：アカデミア世界史（浜島書店）新世界史研究ノート〔応用編〕（啓隆社）
新よくでる一問一答世界史（山川出版社）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	近代ヨーロッパの成立	8	授業内 前期中間
	5月	ヨーロッパ主権国家体制の展開	9	
	6月	欧米における近代社会の成長	8	
	7月	欧米における近代国民国家の発展	10	
	8月	アジア諸地域の動揺	8	
	9月	帝国主義とアジアの民族運動	10	
後期	10月	二つの世界大戦	10	後期中間 授業内 後期期末
	11月	冷戦と第三世界の自立	10	
	12月	現代の世界	7	
	1月	共通テスト演習	15	
	2月	私大・国立2次演習	10	
	3月			

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各時代の諸状況の背景について、根拠をもって考察できたか。 学習内容や自己の意見を場面に応じ的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点等	課題の達成度等	課題の提出、授業態度等

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

配布プリントの学習内容を反復学習することによって完璧に暗記し、基礎知識を習得して、中間試験・期末試験に備えるようにする。

教科	公民	科目	国際政治経済		単位数	3
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	国際政経選択者	

1. 学習の目標・概要

- ・社会における政治の機能を理解し、主体的な社会形成者としての自覚を促す。
- ・経済活動の仕組みを学び、人々の生活にどのように関わっているかを理解することを通し現代世界における諸課題を考察する。

2. 使用教材

教科書：高校政治・経済（実教出版）
副教材：政治・経済資料（とうほう）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	資本主義経済と社会主義経済、経済活動と経済主体、市場経済の機能	8時間	授業内テスト 前期中間 考查
	5月	経済成長と景気変動財政のしくみ、金融機関の働き、物価の動き	8時間	
	6月	日本経済の歩み、中小企業、日本の農業の現状、消費者問題、労働問題	8時間	
	7月	社会保障制度、国際経済、為替相場	6時間	
	8月	国際経済機関の役割	9時間	
	9月	国際経済の諸問題、資源・エネルギー問題、政治と法の機能、人権保障	9時間	前期期末 考查
後期	10月	議会制民主主義、日本国憲法、基本的人権、国会、内閣	9時間	後期中間 考查 授業内テ スト 後期期末 考查
		裁判所、地方自治、政党政治、世論と現代社会	9時間	
	11月	国際政治、国際社会、国際連合	9時間	
	12月	安全保障、国際紛争・難民問題、国際平和、まとめと問題演習	15時間	
	1月	まとめと問題演習	15時間	
	2月 3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	これからの日本経済や世界経済について思考し、学習内容や自己の意見を場面に応じ的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考查の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・副教材を積極的に活用し、基礎知識を確実にすることが、共通テストでの高得点につながる。
- ・時事問題対策として、日頃から新聞やニュースに目を通したりすることも大切である。

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	7
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者

1. 学習の目標・概要

平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。

2. 使用教材

数学ⅢStandard (東京書籍)、Standard Buddy STAGE 数学Ⅲ (東京書籍)
 チャート式 解法と演習 数学Ⅲ (数研出版)
 三訂版ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B(数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当 時間 数	考查範囲
前期	4月	第1章「平面上の曲線」	20	授業内テスト 前期中間考查 前期期末考查
		第2章「複素数平面」	18	
	5月			
		第3章「関数と極限」	28	
	6月			
		第4章「微分」	15	
	7月			
	8月	第5章「微分の応用」	19	
	9月	第6章「積分とその応用」	30	
後期	10月	三訂版ベーシックスタイル数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B	40	後期中間考查
	11月	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B 基礎徹底演習		
	12月			
	1月	大学入試センター試験対策 総合問題演習	30	
		大学入試センター試験対策 総合問題演習	30	
	2月			
	2次試験対策 総合問題演習	15		
	3月			

計 245 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	数学的活動を通して、いろいろな平面上の曲線、複素数平面、関数と極限、微分、微分・積分の応用の考えにおける基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。	数学的活動を通して、いろいろな平面上の曲線、複素数平面、関数と極限、微分、微分・積分の応用の考えにおいて、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。	数学的活動を通して、いろいろな平面上の曲線、複素数平面、関数と極限、微分、微分・積分の応用の考え方に興味をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。
主な評価方法	定期考査 小テスト	定期考査	課題 グループワーク

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 A	単位数	4
学年	3 年	学科	普通科 (文系)・国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析・確率の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

改訂版大学入学共通テスト対策 ニューステージ数学演習 I・A+II・B 受験用

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考査範囲
前期	4 月	数と式 2次関数	13	授業内テスト
	5 月	図形と計量 データの分析 場合の数	14	
	6 月	確率 図形の性質 整数の性質	13	
	7 月	数と式	8	前期中間考査
	8 月	2次関数	10	
	9 月	図形と計量	12	
後期	10 月	データの分析 場合の数と確率	8	前期期末考査
	11 月	図形の性質 整数の性質	17	
	12 月	総合演習	15	
	1 月	総合演習	30	後期中間考査
	2 月			
	3 月			

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察できたか。 各分野の問題に応じた考えが的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること

教科	数学	科目	総合数学 A	単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析・確率の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

三訂版 ベーシックスタイル数学演習 I・A・II・B 受験編

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考査範囲
前期	4月	数と式 2次関数	8	授業内テスト 前期中間考査 前期期末考査
	5月	図形と計量 データの分析 場合の数	9	
	6月	確率 図形の性質 整数の性質	12	
	7月	数と式	6	
	8月	2次関数	10	
	9月	図形と計量	10	
後期	10月	データの分析 場合の数と確率	8	後期中間考査
	11月	図形の性質 整数の性質	12	
	12月	総合演習	15	
	1月	総合演習	15	
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察できたか。各分野の問題に応じた考えが的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 B	単位数	2
学年	3 年	学科	普通科 (文系)・国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

改訂版大学入学共通テスト対策 ニューステージ数学演習 I・A+II・B 受験用

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考査範囲
前期	4 月	式と証明 方程式と複素数	6	授業内テスト 前期中間考査
	5 月	図形と方程式	6	
	6 月	三角関数	7	
	7 月	指数関数と対数関数	6	
	8 月	微分と積分	4	
	9 月	微分と積分	7	
後期	10 月	平面と空間のベクトル	8	前期期末考査 後期中間考査
	11 月	数列	8	
	12 月	総合演習	8	
	1 月 2 月 3 月	総合演習	10	

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察できたか。各分野の問題に応じた考えが的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考査の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	数学	科目	総合数学 B	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択者

1. 学習の目標・概要

代数・幾何・解析の各分野にわたる数学の総合的な力を伸ばす。

2. 使用教材

三訂版 ベーシックスタイル数学演習 I・A・II・B 受験編

3. 学習の計画

	月	学習内容	時間数	考查範囲
前期	4月	式と証明 方程式と複素数 図形と方程式	12	授業内テスト 前期中間考查
	5月	三角関数 指数関数・対数関数 微分	14	
	6月	積分 ベクトル	14	
	7月	数列 式と証明 複素数と方程式	9	
	8月	図形と方程式	10	
	9月	三角関数 指数・対数関数	12	
後期	10月	微分・積分 ベクトル	12	後期中間考查
	11月	数列	12	
	12月	総合演習	18	
	1月	総合演習	15	
	2月			
	3月			

計 140

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	学習した知識を理解し、定着させることができたか。	学習内容の意味を正しく理解し、各単元について、根拠をもって考察できたか。 各分野の問題に応じた考えが的確に表現できたか。	主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
主な評価方法	定期考查の得点など	課題の達成度など	課題の提出度、授業態度など

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習をして授業に臨み、宿題・課題をきちんとこなし、復習もすること。

教科	理科	科目	物理	単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系物理選択者（2年次物理選択者）

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てる。 ・物理法則の理解を求め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

高等学校 物理（数研出版）	リードα 物理基礎・物理（数研出版）
---------------	--------------------

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	熱力学	15	前期中間
	5月	電流	15	
	6月	磁場	15	
	7月	電磁誘導と電磁波	10	前期期末
	8月	原子	10	
	9月	電子と光	10	
後期	10月	電子と原子	10	後期中間
	11月	力と運動，熱と気体，電気と磁気，原子の復習と問題演習	10	
	12月		10	
	1月			
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察，実験などを行い，科学的に探究することができる。また，その結果を正しく記述できる。	物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」とを相互に関連させながら，科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。</p> <p>学習内容の特質に応じて，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈，法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに，報告書などを作成したり，発表を行う機会を設けたりすることにより，探究の全ての学習過程を経験できるようにします。</p>

教科	理科	科目	理科探究 B (化学基礎 と 生物基礎)	単位数	4
学年	3 年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科 選択者

1. 学習の目標・概要

- ・基礎的な科学的素養(化学 と 生物の 2 領域)を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。
- ・実験・実習・観察を通して科学的に探究する能力を身につける。
- ・化学または生物を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

- ・教科書：化学基礎(実教出版) と 生物基礎(東京書籍) …1 年次に使用したもの
- ・問題集：セミナー化学基礎 と ベストフィット生物基礎(実教)新たに購入する予定

3. 学習の計画

	月	学習内容 (化学基礎領域 と 生物基礎領域)		配当時数	考査範囲
		化学基礎領域	生物基礎領域		
前期	4 月	探究活動	探究活動	60	前期中間
	5 月	I.物質の構成・物質の化学結合 II.物質と化学反応式分野	1. 生物の特徴(多様性と共通性)・光合成に関する探究		
	6 月	1.物質と濃度	2. 遺伝子とそのはたらき(遺伝情報と DNA)・DNA 模型		
	7 月	2.化学変化と化学反応式	3. 生物の体内環境・体液濃度の変化が赤血球に与える影響		
	8 月	3.酸と塩基・水素イオン濃度	4. 植生の多様性と分布・身近な植生と環境との関わり		
	9 月	4.中和と塩 5.酸化還元反応	5. 生態系とその保全・外来生物が生態系に及ぼす影響について		
後期	10 月	総復習	問題演習…問題集を利用したの総合学習	80	後期中間
	11 月		知識確認問題演習		
	12 月		実験・考察・計算問題演習		
	1 月	問題演習	総合問題演習		
	2 月	問題集を利用して総合学習	〃		
	3 月	問題演習 直前対策	〃		
	〃	模擬問題演習 直前対策			
	〃	〃			
	〃	〃			
	〃	〃			

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

教科	理科	科目	理科探究 B (生物基礎・地学基礎)	単位数	4
学年	3 年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科 選択者

1. 学習の目標・概要

- ・基礎的な科学的素養(生物と地学の 2 領域)を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた応用力・考察力を習得する。
- ・実験・実習・観察を通して科学的に探究する能力を身につける。
- ・生物, 地学を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

- ・教科書：生物基礎(東京書籍)・地学基礎(数研出版) …1,2 年次に使用したもの
- ・問題集：ベストフィット生物基礎(実教)・ビーライン地学基礎(第一) …3 年次新たに購入する予定

3. 学習の計画

	月	学習内容		配当時数	考查範囲
		生物基礎領域	地学基礎領域		
前期	4 月	探究活動	探究活動)	前 期 中 間
	5 月	1. 生物の特徴(多様性と共通性)・光合成に関する探究	惑星分野・地殻変動分野		
	6 月	2. 遺伝子とそのはたらき(遺伝情報と DNA)・DNA 模型	大気環境分野・古生物分野		
	7 月	3. 生物の体内環境・体液濃度の変化が赤血球に与える影響	環境分野・宇宙分野		
	8 月	4. 植生の多様性と分布・身近な植生と環境との関わり	総復習 地球科学分野		
	9 月	5. 生態系とその保全・外来生物が生態系に及ぼす影響について	地史と古生物分野		
後期	10 月	問題演習…問題集を利用したの総合学習	気象・海洋分野	80	後 期 中 間
	11 月	知識確認問題演習	天文分野		
	12 月	実験・考察・計算問題演習	問題演習		
	1 月	総合問題演習	問題集を利用したの総合学習		
	2 月	〃	問題演習 直前対策		
	3 月	模擬問題演習 直前対策	〃		
		〃	〃		
		〃	〃		

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	自然科学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などについて理解し、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	自然科学に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

校

教科	理科	科目	生物（初）		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択	①

1. 学習の目標・概要

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

教科書 スタンダード生物（東京書籍）
 準拠ノート ニューサポート スタンダード生物
 問題集 リードα 生物基礎+生物（数研出版）
 図説 スクエア最新図説生物（第一学習社）

3. 学習の計画

	月	学 習 内 容	配 当 時 数	考 査 範 囲
前 期	4月	第1編 生命現象と物質 1章 生体物質と細胞 2章 生命現象を支えるタンパク質	15	前期中間
	5月	3章 代謝とエネルギー 第2編 遺伝子のはたらき 1章 遺伝情報の発現	15	
	6月	2章 遺伝子の発現調節 3章 バイオテクノロジー 第3編 生殖と発生 1章 生物の生殖と配偶子の形成	15	
	7月	2章 動物の発生	15	
	8月	3章 動物の発生のしくみ		
	9月	4章 発生をつかさどる遺伝子 5章 植物の発生		

後 期	10月	第4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応 2章 動物の行動	25	後期中間
	11月	3章 植物の環境応答 第5編 生態と環境	25	
	12月	1章 個体群と生物群集 2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ		
	1月	3章 生態系と生物多様性		
	2月	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ 3章 生物の系統	25	
		まとめ・問題集を利用した総合学習 問題演習・直前対策	5	

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生物の共通性、多様性に関する知識を身につけることができた。 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。	生物の進化の歴史と生態系の変遷を学び、現在人類が生態系に与えている影響について思考し、自身を含めた人間活動のありかたについて考察することができる。 また、その結果を表現できる。	生物学的、生態学的な事象、現象に関心を持ち、科学的に探究しつつ環境問題を解決しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題確認テスト（小テスト） 実験レポート（基本知識・技能） 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題確認テスト（小テスト） 実験レポート（記述） 	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価（実験レポートの自主的な取り組みや記述）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

校

教科	理科	科目	生物（続）	単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系選択（2年次生物選択者）②

1. 学習の目標・概要

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。（昨年度（2学次）の学習の続きと受験に向けての問題演習を行う。）

2. 使用教材

教科書 スタンダード生物（東京書籍）
 図説 スクエア最新図説生物（第一学習社）
 問題集 リードα生物基礎+生物（数研出版）

昨年度（2学次）に使用した物を継続使用します。

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
前 期	4月	第5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集	20	前期中間	
	5月	2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ 3章 生態系と生物多様性			
	6月	第6編 生物の進化と系統 1章 生命の起源と生物の変遷 2章 進化のしくみ			20
	7月	3章 生物の系統			
	8月	まとめ・問題集を利用した総合学習	10		前期期末
	9月	問題演習（生物現象と物質・遺伝子のはたらき）			
	後 期	10月	問題演習（生殖と発生・生物の環境応答）		20
11月		問題演習（生態と環境・生物の進化と系統）	20		
12月		問題演習・直前対策	10		
1月		問題演習・直前対策	5		
2月					

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<p>生物の共通性、多様性に関する知識を身につけることができた。</p> <p>科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けた。</p>	<p>生物の進化の歴史と生態系の変遷を学び、現在人類が生態系に与えている影響について思考し、自身を含めた人間活動のありかたについて考察することができる。</p> <p>また、その結果を表現できる。</p>	<p>生物学的、生態学的な事物、現象に関心を持ち、科学的に探究しつつ環境問題を解決しようとする態度を身に付けている。</p>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題確認テスト（小テスト） ・実験レポート（基本知識・技能） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題確認テスト（小テスト） ・実験レポート（記述） 	<p>授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価（実験レポートの自主的な取り組みや記述）</p>

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」とを相互に関連させながら、科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指します。

学習内容の特質に応じて、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得できるようにするとともに、報告書などを作成したり、発表を行う機会を設けたりすることにより、探究の全ての学習過程を経験できるようにします。

教科	理科	科目	化学	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系初化学選択者

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
物質の構造や構造に対する理解を求め、化学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

化学 (数研出版)
セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	第1編 物質の状態	5	前期中間 前期期末
	5月	粒子の結合と結晶の構造	5	
	6月	物質の三態と状態変化	10	
	7月	気体 液体	10	
	8月	第2編 物質の変化	10	
	9月	化学反応とエネルギー	10	
後期	10月	電池と電気分解	8	後期中間
	11月	化学反応の速さとしくみ	8	
	12月	化学平衡	8	
	1月	第3編 無機物質	8	
	2月	非金属元素	8	
	3月	金属元素	8	
	4月	第4編 有機化合物	5	
	5月	有機化合物の分類と分析	8	
6月	脂肪族炭化水素	8		
7月	アルコールと関連化合物	8		
8月	芳香族化合物	8		
9月	第5編 高分子化合物	5		
10月	高分子化合物の性質	5		
11月	天然高分子化合物	5		
12月	合成高分子化合物	5		
1月	共通テスト対策	17		

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(基本知識・技能)	定期考査 課題確認テスト(小テスト) 実験レポート(考察記述)	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価(実験レポートの自主的な取り組みや記述)

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。
提出物の期限を守ること。

教科	理科	科目	化学	単位数	3
学年	3年	学科	普通科	履修対象	理系統化学選択者

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
化学変化の法則に関する理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

化学 (数研出版)
セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	第2編 物質の変化 2: 電池と電気分解	6	1学期中間
	5月	3: 化学反応の速さとしくみ 4: 化学平衡	6 8	
	6月	第3編 無機物質 1: 非金属元素	6	
	7月	2: 金属元素 (I)	7	1学期末
	8月	3: 金属元素 (II)	7	
	9月	第4編 有機化合物 1: 有機化合物の分類と分析 2: 脂肪族炭化水素	8 8	
後期	10月	3: アルコールと関連化合物 4: 芳香族化合物	8 7	2学期中間
	11月	第5編 天然有機化合物 1: 天然有機化合物 2: 天然高分子化合物	7 7	
	12月	第6編 合成高分子化合物 1: 高分子化合物の性質 2: 合成高分子化合物	8	2学期末
	1月	問題演習	12	
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究することができる。また、その結果を正しく記述できる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
主な評価方法	定期考査 課題確認テスト（小テスト） 実験レポート（基本知識・技能）	定期考査 課題確認テスト（小テスト） 実験レポート（考察記述）	授業に臨む姿勢や意欲及びパフォーマンス評価（実験レポートの自主的な取り組みや記述）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

提出物の期限を守ること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。

教科	保健体育	科目	体育		単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修	

1. 学習の目標・概要

各種の運動を合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2. 使用教材

--

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当 時数	考查範囲
前期	4月	オリエンテーション、体づくり運動、スポーツテスト	6	授業内テスト
	5月	選択Ⅰ（バレーボール・ソフトボール・バスケットボール）、CM練習	6	
	6月	選択Ⅰ（バレーボール・ソフトボール・バスケットボール）	7	
	7月	選択Ⅱ（水泳・バスケットボール・卓球）	5	
	8月	選択Ⅱ（水泳・バスケットボール・卓球）	4	
	9月	陸上（長距離走）、体育理論	8	
後期	10月	選択Ⅲ（サッカー・バレーボール・バドミントン）	7	授業内テスト
	11月	選択Ⅲ（サッカー・バレーボール・バドミントン）	7	
	12月	選択Ⅳ（バドミントン・バレーボール・卓球）	6	
	1月	選択Ⅳ（バドミントン・バレーボール・卓球）	6	
	2月	選択Ⅴ（バドミントン・バレーボール・卓球）	4	
	3月	選択Ⅴ（バドミントン・バレーボール・卓球）	4	

計 70 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするための技能や、運動の多様性や体力の必要性についての知識を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	公正、協力、責任、参画、一人ひとりの違いを大切にしようとするなどの意欲がいくつか身につけており、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけている。
主な評価方法	ゲーム等における実技レベル 学習カードやレポートの記述内容	学習カードやレポートの記述内容 発言や活動の様子	授業に取り組む姿勢や意欲 学習カードやレポートへの取り組みや記述

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

運動・スポーツに対する知識・技技能の向上に加えて、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の向上も図り、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる資質・能力の育成を目指す。よって、学習カードやレポート等の記述内容や取り組みの様子など、体育の授業における取り組みを総合的に評価する。

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ		単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	3年普通科	

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・今までに培った言語知識をもとに、多様な分野の英文に触れて視野を広げ、新しい言語知識を手に入れるとともに定着を目指す。 ・言語知識をできる範囲で駆使して、自分の意見を表現できることを目指す。
--

2. 使用教材

Flex English Communication III (増進堂) Rapid Reading Level 2 (美誠社)、Target 1900 (旺文社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	Skills 1～5 (フレーズリーディング、予測読み等)	(12)	3年テスト 前期中間考 査
	5月	Lesson1: Mr. Prince Meets Jakuchu	(12)	
	6月	Lesson2: Cleaning the Oceans	(14)	
	7月	Lesson3: Value of Practice	(14)	
	8月	Lesson4: In Defense of Zoos	(4)	
	9月	Lesson5: Facing Your Marshmallow Problem	(14)	
			Lesson6: Eco-Friendly Farming Lesson7: Lessons from History of Easter Island 速読 : Rapid Reading 1～14	
後期	9月	Lesson8: Life Without Magic	(4)	前期期末考 査 後期中間考 査
	10月	Lesson9: A Brief History of Humans	(11)	
	11月	Lesson10: Happiness Is a Journey	(11)	
	12月	共通テスト対策	(11)	
	1月	国公立2次対策・私大一般入試対策	(11)	
	2月	速読 : Reading Core for 共通テスト 15～22	(11)	
	3月		(11)	
			70	

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能(1)	思考・判断・表現(2)	主体的に学習に取り組む態度(3)
科目ごとの評価の観点の趣旨	言語知識と背景知識を身に着け、それを駆使して英文理解と自己表現ができる技能を身に着けている。	事実や客観的な視点、自己の意見を総合した上で、英文を批評的に評価し、表現できる力が身についている。	言語知識を英文読解等の実際の言語使用に実践しようとする姿勢と他言語を理解しようとする言語観(感)が身についている。
主な評価方法	Regular exam (writing) Vocabulary test	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・授業で扱う基本的な単語、熟語の定着を最優先すること。 ・自宅学習でも積極的に音読練習をすることで英語を使用する機会を持ち続けること。 ・わからない部分については積極的に担当職員に質問をして、理解を深める姿勢を持つこと。
--

教科	外国語	科目	英語総合	単位数	4
学年	3年	学科	普通科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

- ・比較的平易な英文から段階的に学習し、英文の読み方や英文の理解の仕方を再確認する。
- ・文法、語彙を確認しつつ、長文読解力の基礎を養成する。
- ・まとまった文を読むことで、全体の構成や主題をとらえることを目指す。

2. 使用教材

アップリフト英語長文読解 入試演習1 [改訂版] (Z会)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	1 生活・人間関係	14	前期中間考查
	5月	2 生活・人間関係		
	6月	3 地球環境	14	
	7月	4 地球環境		
	8月	5 文化・人間	14	
	9月	6 文化・人間		
		7 文化・人間	14	前期期末考查
		8 自然・科学		
		9 自然・科学	4	
		10 言語・コミュニケーション	10	
		11 言語・コミュニケーション	(70h)	
後期	9月	11 言語・コミュニケーション	4	後期中間考查
	10月	12 言語・コミュニケーション	14	
	11月	13 情報・科学技術	14	
	12月	14 情報・科学技術	14	
	1月	15 社会・経済	14	
	2月	16 社会・経済	5	
	3月	17 社会・経済	5	
		18 医療・健康	(70h)	
		19 医療・健康		
		20 医療・健康 総合問題演習		

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	幅広いテーマを英文で読む際に必要とされる言語知識と教養が身につけている。	多様なトピックの英文を読んだ上で、その内容にする自分の考えを他の生徒に伝えたり、共有する力が身につけている。	英語の知識や技能を身につけると同時に幅広い教養を身につけ、他の生徒と意見を共有しようとする姿勢が見られる。
主な評価方法	Regular exam (writing) quiz Pair and Group work (oral or writing)	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

文を読めるということは文法的に訳せるというだけでなく、文の意味している内容が想像できるという点まで含む。この教材の文章は内容的に興味深く、様々なテーマにわたっているので、この教材を通して知識と教養を深めることもこころがけてほしい。

教科	外国語	科目	英語理解 (国際 3 単位)	単位数	3
学年	3 年	学科	国際教養科	履修対象	3 年国際教養科

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・今までに培った言語知識をもとに、多様な分野の英文に触れ、視野を広げるとともに新しい言語知識を手に入れるとともに定着を目指す。 ・言語知識をできる範囲で駆使して、自分の意見を表現できることを目指す。
--

2. 使用教材

Flex English Communication III (増進堂)、 Rapid Reading Level 2 (美誠社)、Target 1900 (旺文社)
--

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
前期	4 月	Skills 1~5 (フレーズリーディング、予測読み等)	(10)	前期中間考査	
	5 月	Lesson1: Mr. Prince Meets Jakuchu	(10)		
	6 月	Lesson2: Cleaning the Oceans Lesson3: Value of Practice	(10)		
	7 月	Lesson4: In Defense of Zoos	(10)		
	8 月	Lesson6: Eco-Friendly Farming	(4)		
後期	9 月	Lesson7: Lessons from History of Easter Island	(11)	前期期末考査	
	速読 : Rapid Reading 1~14		55		
	9 月	Lesson8: Life Without Magic	(2)		後期中間考査
	10 月	Lesson9:A Brief History of Humans	(8)		
	11 月	Lesson10 : Happiness Is a Journey	(8)		
	12 月	共通テスト対策	(8)		
	1 月	国公立 2 次対策・私大一般入試対策	(8)		
2 月	速読 : Reading Core for 共通テスト 15~22	(8)			
3 月		(8)	50		

計 105 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能(1)	思考・判断・表現(2)	主体的に学習に取り組む態度(3)
科目ごとの評価の観点の趣旨	言語知識と背景知識を身に着け、それを駆使して英文理解と自己表現ができる技能を身に着けている。	事実や客観的な視点、自己の意見を総合した上で、英文を批評的に評価し、表現できる力が身につけている。	言語知識を英文読解等の実際の言語使用に実践しようとする姿勢と他言語を理解しようとする言語観(感)が身につけている。
主な評価方法	Regular exam (writing) Vocabulary test	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

○授業で扱う基本的な単語、熟語の定着を最優先すること。○自宅学習でも積極的に音読練習をすることで英語を使用する機会を持ち続けること。○わからない部分については積極的に担当職員に質問をして、理解を深める姿勢を持つこと。

教科	外国語	科目	英語理解 (文国4単位)	単位数	4
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年普通科・国際教養科選択者

1. 学習の目標・概要

- ・今までに培った言語知識をもとに、多様な分野の英文に触れ、視野を広げるとともに新しい言語知識を手に入れるとともに定着を目指す。
- ・言語知識をできる範囲で駆使して、自分の意見を表現できることを目指す。

2. 使用教材

Flex English Communication III (増進堂)、
Rapid Reading Level 2 (美誠社)、Target 1900 (旺文社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
前期	4月	Skills 1~5 (フレーズリーディング、予測読み等)	(12)	前期中間考 査
	5月	Lesson1: Mr. Prince Meets Jakuchu	(12)	
	6月	Lesson2: Cleaning the Oceans Lesson3: Value of Practice	(14)	
	7月	Lesson4: In Defense of Zoos	(14)	
	8月	Lesson6: Eco-Friendly Farming	(4)	
後期	9月	Lesson7: Lessons from History of Easter Island	(14)	前期期末考 査
	速読 : Rapid Reading 1~14		70	
	9月	Lesson8: Life Without Magic	(4)	
	10月	Lesson9: A Brief History of Humans	(11)	
	11月	Lesson10 : Happiness Is a Journey	(11)	
	12月	共通テスト対策	(11)	
	1月	国公立2次対策・私大一般入試対策	(11)	
	2月	速読 : Reading Core for 共通テスト 15~22	(11)	
3月		(11)	70	

計 140 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能(1)	思考・判断・表現(2)	主体的に学習に取り組む態度(3)
科目ごとの評価の観点の趣旨	言語知識と背景知識を身に付け、それを駆使して英文理解と自己表現ができる技能を身に付けている。	事実や客観的な視点、自己の意見を総合した上で、英文を批判的に評価し、表現できる力が身につけている。	言語知識を英文読解等の実際の言語使用に実践しようとする姿勢と他言語を理解しようとする言語観(感)が身につけている。
主な評価方法	Regular exam (writing) Vocabulary test	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

○授業で扱う基本的な単語、熟語の定着を最優先すること。○自宅学習でも積極的に音読練習をすることで英語を使用する機会を持ち続けること。○わからない部分については積極的に担当職員に質問をして、理解を深める姿勢を持つこと。

教科	英語	科目	英語表現	単位数	2
学年	3年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	3年普通科・国際教養科

1. 学習の目標・概要

<ul style="list-style-type: none"> ・今までに培ってきた文法の知識を問題演習等を通じて復習し、定着を目指す。 ・定着した言語知識を英作文などの実際の英語使用に応用できるようにする。

2. 使用教材

Next Stage Best Trainer (桐原書店) 総合英語 Evergreen (桐原書店) Listening Trial Ver.3 Stage 2.5 (文英堂) Next Stage (桐原書店) その他、随時ワークシートなどを利用
--

3. 学習の計画

	月	学習内容	Listening Trial Ver.3 Stage 2.5	Pair & share①	配当時数	考查範囲
前期	4月	1 時制 2 態 3 助動詞	Unit 1,2	Lesson 1~2	(7)	前期期中 間 考 査
	5月	4 仮定法 5 不定詞 6 動名詞	Unit 3,4,	Lesson 4~5	(7)	
	6月	7 分詞 8 比較 9 代名詞	Unit 5,6	Lesson 6~7	(7)	
	7月	10 関係詞 11 接続詞 12 前置詞	Unit 7,8	Lesson 8~9	(7)	
	8月	13 主語と動詞の一致 14 疑問文と語順	Unit 9		(2)	
	9月	15 否定・省略・協調 16 動詞の語法 17 形容詞の語法	Unit 10		(5)	前期期末 考 査
後期	9月	16 動詞の語法 17 形容詞の語法	Unit 10	Lesson 10~11	(2)	後期中間 考 査
	10月	18 副詞の語法 19 名詞の語法 20 動詞中心のイディオム	Unit 11	Lesson 12~14	(7)	
			Unit 12	Lesson 15~17	(7)	
	11月	21,22 形容詞・副詞中心のイ ディオム	Unit 13,14		(7)	
	12月	22 名詞中心のイディオム	Unit 15,16	Lesson 18~20	(7)	
	1月	24 群前置詞 25 会話表現	Unit 17,18			
	2月	26 アクセント 27 発音	Unit 19,20			
3月	共通テスト対策問題・国公立 2 次、私大英作文			(5)	35	

計 70 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	言語知識を身に着け、実際の言語使用の場面で会話を成立させるための知識と技能が身につけている。	演繹的な理解だけでなく、帰納的な理解を目指すことで、その言語の本質について考え、理解を深めることができる。	言語知識を実際の言語使用に実践しようとする姿勢と他言語を理解しようとする言語観(感)が身につけている。
主な評価方法	Regular exam (writing) Grammar test	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral and writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

2年生までに培ってきた文法の知識を再度復習し、自分の持っている知識で英語を書いてみる、発話してみる機会を多く持てるようにしましょう。実際の言語使用を通じて定着している表現や、伝えたいけど表現方法がわからない表現を見極めて学習に活かしましょう。

教科	英語	科目	時事英語	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

- ・実際に英語圏で発信されているニュース記事や報道番組に触れながら、英語での理解力を高める。
- ・グループディスカッション、プレゼンテーションやエッセイライティングなどで自分の意見を発信し、友人と共有することを通じて表現力を身につける。

2. 使用教材

英字新聞・ニュース番組など

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
前期	4月	Foreign news and World news	(5)	授業内テスト 前期中間考査 前期期末考査
	5月	blog entry	(6)	
	6月	Appropriation and appreciation research	(6)	
	7月	Issues surrounding Fast fashion	(6)	
	8月	Issues surrounding Fast fashion	(6)	
	9月	Smartphone addiction	(6)	
			35	
後期	9月	Issues surrounding Fast fashion	(2)	後期中間考査 授業内テスト
	10月	Smartphone addiction	(6)	
	11月	Indigenous peoples	(6)	
	12月	Misconception	(6)	
	1月		(6)	
	2月		(6)	
	3月	Essay and presentation	(3)	
			35	

計 70 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	相手に伝わるエッセイを書いたり、わかりやすいプレゼンテーションを行うためのストラクチャーの立て方とそれを表現する英語力が身についている。	わかりやすく正確な情報を発信するために、インターネットや書籍などの情報を分析し、自分の言葉で表現できる力が身についている。	ALT や友人から得たアドバイスを参考にして完成度の高いエッセイやプレゼンテーションを目指すための姿勢が身についている。
主な評価方法	Interview test Essay Presentation	Group discussion Essay Presentation	毎時間の授業への取り組み

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

高校での英語コミュニケーション学習の総仕上げとして、いくつかのテーマについてプロジェクト形式で取り組み、プレゼンテーションをすることが求められます。ALT とコミュニケーションを取りながらアドバイスなどを適宜もらい、完成度の高いプレゼンを目指すと同時に英語を操る喜びを感じられるようにしよう。リサーチや PPT 作成など授業外での準備が多い授業であるため、計画的に進めていくことが大切である。

教科	英語	科目	速読演習	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年国際教養科・普通科選択者

1. 学習の目標・概要

- ・速く正確に英語を読むことができるようになるために、英語を英語の語順のまま正しく理解するトレーニングを積む。リスニングを併用し、返り読みをする習慣を改める。
- ・自分の読解速度を理解し、150wpm以上を目指す。
- ・読んだ内容に関してディスカッションを行い、自分の意見を適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

2. 使用教材

読んで聴いて速読力アップLR④, LR⑤ (いづな書店), その他速読・多読教材

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
前期	4月	LR④ Lesson 1~6	6	授業内テスト 前期中間考査
	5月	Lesson 7~10	7	
	6月	Lesson 11~16	8	
	7月	Lesson 17~21	7	
	8月	LR⑤ Lesson 1~2	2	前期期末考査
	9月	Lesson 3~6	5	
			35	
後期	9月	LR⑤ Lesson 7~8	2	後期中間考査
	10月	Lesson 9~16	8	
	11月	Lesson 17~21	7	
	12月	その他速読・多読教材	7	授業内テスト
	1月		6	
	2月		5	
	3月		35	

計 70 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	スキミングやスキヤニングのスキルを使いながら、正確に英文を速読する力が身についている。	情報を整理し、書き手の意図を把握することができる。また、自分の考えを論理的に適切な英語で表現し、伝え合うことができる。	速読スキルの習得を目指す姿勢と積極的にディスカッションを行う姿勢が見られる。
主な評価方法	Regular exam (writing) quiz	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

この授業では英語を速く正確に読む力をつけるために、英文を返り読みしないで前から読む活動を重点的に行います。英文解説や文法問題等は扱いません。しかし、英文を読む土台として正確な英語の知識は欠かせません。日頃より語彙力をつけ、文法を理解することに努めてください。

教科	英語	科目	精読英語	単位数	2
学年	3年	学科	国際教養科・普通科	履修対象	3年国際教養科・普通科選択者

1. 学習の目標・概要

- ・ 英文を精読し、筆者の意図や考えを読み取りながら解答を作る練習をする。
- ・ 様々な英文に触れ、初見の英文に対する対応の仕方を学ぶ。
- ・ 段階的により高度な英文の読み取りを目指し、読んだことを英語で討論できるようにする。

2. 使用教材

入試問題、時事問題から自作教材

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲	
前期	4月	1 文化	各課 4h まとめ 討論 2h 1 学期 35h	前期中間考査	
		2 国際関係			
		3 欧州事情			
	5月	4 テクノロジー			
		5 コミュニケーション			
	6月	6 人間の心理			
		7 環境問題1			
	7月	8 環境問題2			
	8月			前期期末考査	
	9月				
後期	9月	9 世界の史跡	各課 3h まとめ 討論 2h 総合問題 演習 3h 2 学期 35h		後期中間考査
		10 人口問題			
	10月	11 renewable energy 1			
		12 renewable energy 2			
	11月	13 SDGs1			
		14 SDGs2			
	12月	15 水問題			
		16 南北格差			
1月	総合問題演習				
	2月				
	3月				

計 70 時間

4. 評価計画および方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	英語で書かれた情報を正確な日本語に変換するための言語知識と正しい日本語が身についている。	精読を通じて日本語と英語には表現や言語ルールにどのような違い、あるいは類似点があるのかを帰納的に考える力が身についている。	精読をする際に前後の文脈やそれが書かれたコンテキスト(背景)について考え、文章を深く理解しようとする姿勢がある。
主な評価方法	Regular exam (writing)	Regular exam (writing) Pair and Group work (oral or writing)	Attitude towards lessons

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

単語や文法などの基礎的な力の不足によって解答できないということにならないように、基礎的な力を確実にして臨んでほしい。また、問題を解いていく中で基礎力が不足していると感じた場合は、すぐに補強するべく勉強のし直しを始めてほしい。